

時代	近代	遺跡	御崎谷遺跡（隠岐の島町）
隠岐にある日露戦争の海軍望楼跡 ～日露戦争の遺跡～			
日本とロシアの対立が深まるなか、日本海沿岸には監視に関わる施設が建設されました。県内では4か所の海軍望楼と3か所の陸軍監視兵派遣が知られています。			

隠岐の島町の御崎谷遺跡では「西郷海軍望楼」が発見されました。

この望楼は日本海を望む高台にあり、当時対立していたロシアの艦隊を監視するために築かれたものです。望楼は、幅 5m程度の馬蹄形で、高さは 2m程度ありました。また付近には無線用のアンテナを立てた穴が見つかりました。望楼の一段低い場所には管理棟があり、近くの御崎谷Ⅱ遺跡からは官舎の建物跡3棟が見つかりました。

海軍望楼は全国に120か所設置され、このうち日露戦争中（1904～05年）は79か所が機能していました。島根県内では4か所に設置されました。その他、陸軍の沿岸監視の施設が3か所ありました。



図1 御崎谷遺跡

島根県の日露戦争前後の戦争遺跡（沿岸部監視関係）			
海 軍 望 楼			
番号	名称	所在地	設置年
1	西郷海軍望楼	隠岐の島町岬町	1899年
2	美保関海軍望楼	松江市美保関町	1901年
3	高崎山海軍望楼	西ノ島町	1904年
4	杵築海軍望楼	出雲市大社町	1904年
陸軍監視兵派遣か所（海底電線揚陸点監視）			
5	（菱浦）	海士町	1904年
6	（西郷）	隠岐の島町東郷	1904年
7	（千酌・本庄）	松江市本庄町	1904年

イルティッシュ号事件

1905年5月27日の日本海海戦に参加したロシアの石炭輸送船イルティッシュ号は、翌5月28日に島根県江津市和木の真島沖で航行不能になり、ボートで上陸を試みた。しかし、折りからの強い西風に煽られ、ボートは転覆し、ロシア兵は海に投げ出された。当初、和木の住民は攻撃ではないかと警戒したが、その後投降であることが分かったと、総出で救助にあたった。乗員235名が上陸し、住民から飲食を含めた保護を受けた。また、負傷者53名は、和木と嘉久志の小学校で手当てを受けた。翌年から、和木の住民によって、ロシア兵を偲んだロシア祭りが行われている。近年ではロシア側からの参加があり、両国の交流が進んでいる。



ロシア祭り

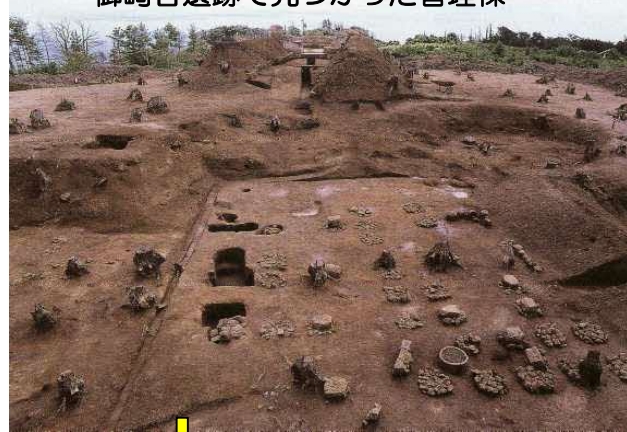
出典：解説…（図1,2）『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001 島根県教育委員会
ワークシート…（写真・復元想像図）『御崎谷遺跡・大床遺跡』2001

～日露戦争の遺跡～

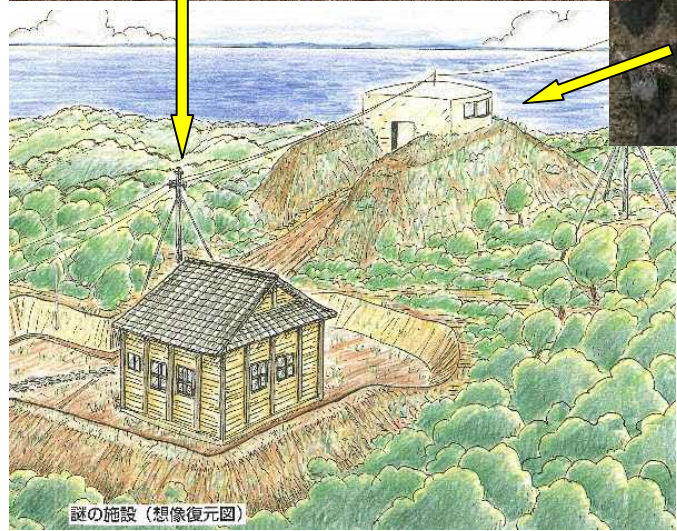
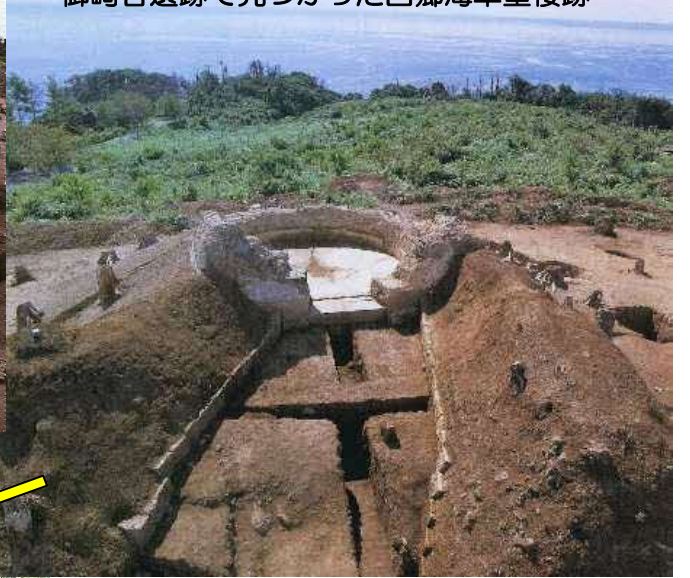
年 組 名前

中国東北部や朝鮮半島をめぐって、日本がロシアと対立するようになると、隠岐には戦争に備えた施設が造られるようになりました。

御崎谷遺跡で見つかった管理棟



御崎谷遺跡で見つかった西郷海軍望楼跡



御崎谷遺跡の位置



challenge

① 上の写真は、隠岐の島町で見つかった、戦争に関係した施設の跡です。これは何のためにつくられた施設でしょうか？

